

【野菜】の【降灰】対策について

<通年>

農業経営支援課

【野菜】

(1) 予想される被害状況

降灰による日照不足
生産物への灰の付着等
施設の破損

(2) 事前対策

桜島、霧島山系、阿蘇山等、活動が活発になっている火山の影響下にあり、一旦噴火が起こると県内各地で被害が発生する可能性があるため、火山情報にも注意をはらう。

(3) 事後対策

【施設園芸共通】

1. ビニルハウス等の被覆資材に付着した火山灰は、速やかに除去する。
(注) 高所での作業の際には、転落事故が起きないように十分注意する。
2. 噴石等によって破損したビニル等の被覆資材は、速やかに補修を行う。
3. ハウス内の光線透過量は、被覆資材面に100g/m²の降灰があると約30%の光量に、また、200g/m²の降灰で約20%の光量となる(注)。
(注) 主要品目の光飽和点は、キュウリ5万ルクス、ピーマン・イチゴ4万ルクス、トマト7万ルクスとなっている。
4. 被覆資材面の除灰には、動力噴霧器による高圧ノズル(鉄砲ノズル等)を利用した洗浄が最も効果的である。(下記、《火山灰の除去対策》を参照)
5. ハウス谷部の火山灰堆積が多い場合には、ハウス内部への火山灰の流入の可能性や、巻き上げ部の埋没等により換気ができなくなることがあるので、谷部の除灰作業を優先する。
6. 被覆資材面に残る微細な火山灰は、洗浄しても落ちないため、できるだけスポンジや布等を利用して、傷つけないよう注意して拭き取る。

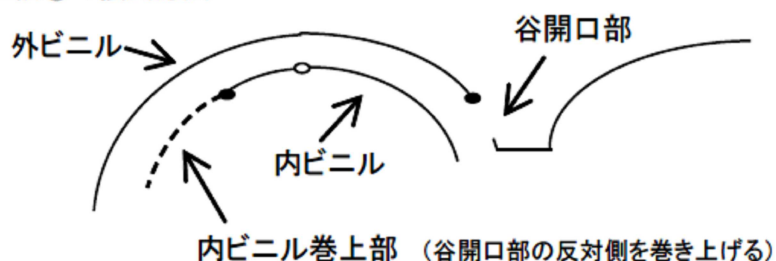
《火山灰の除去対策》

- ①火山灰の堆積が多い場合は、ブロワーを利用し、風圧で積灰量を減らした後に、動力噴霧器による水を使った高圧洗浄を行う。(ブロワーを使用する際は、周囲への飛散に注意する)
- ②火山灰堆積が多く、降灰が続く場合は、ブロワー等で適宜除去を行い、降灰が治まった後、高圧洗浄を行う。
- ③堆積の少ない場合は、直ちに高圧洗浄を行う。
- ④洗浄後も火山灰が被覆資材表面に残り、光線透過量の低下により作物の生育に悪影響を及ぼす場合には、資材を傷つけないように注意しながら、寒冷紗など柔らかな素材で払い落とす。
- ⑤ハウスの被覆資材面の除灰作業に多量の水を使用する場合は、ハウス内外の排水に留意する。

《降灰時のハウス内管理》

- ①天井及び谷部に堆積した火山灰が、直接作物に付着しないようブロワー等で除去した後、谷部及びサイドビニルの開閉を行う。
- ②9月頃の定植期以降10月まではハウス内が高温となるため十分な換気を行うが、降灰により換気ができない場合は、日中の遮光ネット被覆等によりハウス内温度の低下を図る。
- ③堆積火山灰の除去ができない場合は、ハウスサイド部の開閉で温度調節する。
- ④谷部開閉を行う場合には、谷開口部側の内ビニルは開かず、火山灰のハウス内への侵入による作物への付着を防止する。(下図参照)
- ⑤野菜類では葉等への微量の付着での影響は少ないが、多量の付着がある場合には、動力噴霧器等により洗い流す。

図) 上記③の換気方法



【露地野菜共通】

1. 作物の除灰は、ブロワーによる払い落としや動力噴霧器及びスプリンクラー等による散水によって速やかに行う。(ブロワーを使用する際は、周囲への飛散に注意する)
2. 払い落としや散水を行う際には、茎葉を傷めない程度の風圧・水圧に注意する。
3. 火山灰が残らないよう、十分な水量で洗い流す。